

## 中学校区で一体となった生活習慣づくり

### ★ 自分だったどうする？ メディア接触、スマホの利用 ★

◆一中校区では、小中連携しながらメディアコントロールについて取り組んでいます。今年度は、一中全生徒と石見小・三階小6年生児童が一堂に会し、情報教育アナリスト長谷川陽子さんを講師とした『メディア講演会』を実施しました。「自分だったらどうする？～加害者にも被害者にもならないためには～」というテーマで、一中校区の児童生徒の〈メディア接触についてのアンケート〉結果を基にした【家庭でのルール作り】や【フィルタリングの必要性】の話、【ネット利用の実態】や【思いもよらないことで犯罪に巻き込まれたり、加害者になったりしうる】といった事例を挙げての話でした。児童生徒は、自分達のメディア利用と比べながら、真剣な表情で聴いていました。夜には、長谷川さんから、一中PTA生活部研修会で、石見小・三階小の6年生保護者や地域の方、教職員が、「親が知るべき三つの権利侵害～我が子をネット犯罪者にしないためには～」のテーマで研修しました。児童生徒と保護者が、同じ講師から同じ内容で話を聴いて考えましたので、【家庭でのルール作り】に効果があったと考えています。



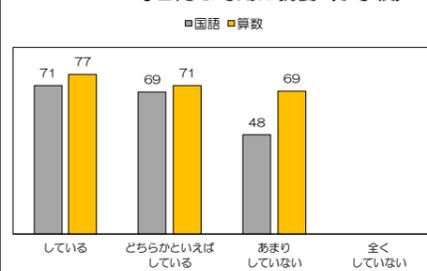
＜一中校区メディア講演会＞

### ★ やっぱり！ 見える化！ 睡眠時間、規則正しい生活 ★

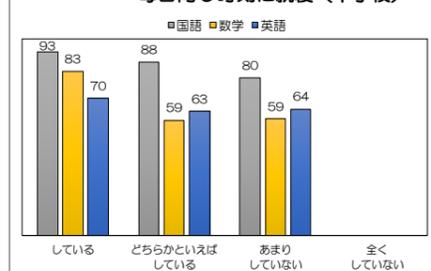
◆旭中校区では、全国学力調査の「児童・生徒質問紙」に着目し、小学校6年生と中学校3年生の生活習慣に関する回答と正答率をクロス集計することで、これまでの取組と現状を分析しました。小学校・中学校ともに顕著な有意差が見られたのは、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という項目で、下図のような結果となりました。肯定的な回答ほど正答率も高いことが分かります。来年度以降は、これらの結果を活用しながら生活習慣改善の啓発に役立てたいと思います。

◆二中校区では、中学校の定期試験に合わせてアウトメディアウィークを設定しています。今年度は、高学年が使うアウトメディアチャレンジカードを検討し、小中の接続をスムーズにするために中学校用カードに近い様式に修正しました。また、学習時間、メディア接触の時間などを色分けして記録し、時間の使い方や量を可視化しました。これは、自分の時間の使い方を視覚的に把握することにつながり、意識が高まりました。

毎日同じ時刻に就寝（小学校）



毎日同じ時刻に就寝（中学校）



＜「毎日、同じ時刻に寝ていますか」＞

○「生活習慣」に関わる中で、「メディア接触」、特に「スマホとの関わり」が最も大きな課題です。スマートフォンの使い過ぎは、児童生徒の学力だけでなく、視力や体力に悪影響を与えている状況が見えてきました。使い過ぎは、児童生徒の「脳の発達を止める」「毒性がある」ということが科学的データで分かってきたのです。また、「1時間未満ならば、少なくとも、学力を指標してみた時、影響は出てない。」ことも分かりました。使用を1時間未満で押さえることが大きなポイントなのです。スマートフォンは、あくまでも道具であり、道具は使うものであって、道具に使われたらアウトだということを、一人ひとり(子どもも大人も)が自覚して、考えていくことが重要です。

## 学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

### ★ なるほど！ 「自主学习の取組シェア」 家庭学習の充実 ★

◆旭中校区では、「自尊感情をもち、自分のよいところや能力を進んで伸ばしていこうとする児童生徒を育む」ことをテーマに、今年度は、「粘り強い心」「自己有用感」の2点を重点項目として取り組んできました。◇【小学校】「家庭学習の手引き」の中に児童が取り組みやすい学習の内容を学年に応じて紹介したり、自学ノートの取り組み方が良いページに付箋やコメントをつけて返したりし、自主的に学習に取り組もうとする意欲を高めていきました。また、望ましい生活習慣づくりのための「元気はつつ旭っ子カード」に、家庭学習に取り組んだ時間などを記入する欄も設け、自分の学習の仕方を振り返ったり、保護者と一緒に確認したりできるようにし、学習時間の意識化を図ることができました。また、学習公開日に自学ノートを展示し、多くの保護者に見てもらう機会を設けました。◇【中学校】「自学Showtime」と称し、1学期(5月)と2学期(11月)に自学ノートの取組を改善する機会を設けました。異学年の少人数グループでお互いのノートを見て、良いところを伝え合ったり、学習方法について話し合ったりしました。事後の感想では、「ここで新しく知った学習方法を実践して頑張っていきたい」という感想が多く出されました。それらの感想や、学習方法の工夫の具体などをプリントして配付・掲示し、シェアすることで、自主学习の一層の充実を図りました。



＜自学Showtimeの風景＞

### ★ あっ！ 挑戦！ 「漢字検定！」 ★

◆弥栄中校区で行っている「漢字検定」の取組は、今年度で3年目になります。一人ひとりが自分にあった「〇級の試験に合格する」という明確な目標をもち、事前学習に取り組むことで学習習慣を身につけたり、試験に合格する喜びや不合格になる悔しさを体験することによって学習意欲を育んだりすることを目的に行っています。「中学校卒業までに3級以上を取得したい。」と考える児童生徒が増えています。

### ★ そうだ！ 「チャレンジなしに、成功なし！」 「選択できる力を」 ★

◆四中校区では、児童生徒が【「こうなりたい」という夢(目標)をもつことができれば、「なりたい自分になる」ための努力(チャレンジ)をすることができる】と考え、取り組んできました。教職員・保護者の役割はそういった児童生徒のチャレンジをサポートすること。そうすることで、児童生徒の夢の実現のサポートにもつながると考え、保護者へも発信してきました。そこで、今年度は、小中学校合同PTA教育講演会で、児童生徒が夢を持つことや、保護者・教職員がそれをサポートすることについて参考になるお話を聞きたいと考え、講師にバルセロナ・アトランタ五輪の競泳日本代表として出場された、千葉すずさんの講演会を開催しました。＜演題＞「スポーツを通じ食えること、仲間の大切さ」＜参加者＞美川小学校5、6年生、中学校全生徒、小中学校保護者、教職員、地域の方。

【すずさんのお話から】〇チャレンジしなければ、決して成功することはない。チャレンジせずにできないことと、チャレンジしてできないことは違う。〇おかしいと思うことはきちんとおかしいと伝えること。それが、後輩たちの未来を開くことにもつながる。〇水筒の蓋を取って洗っておかなければ、決して(親が)入れることはしない。子どもであっても、しなければならないことをしていないのに、親が「してやる」ことはない。〇子どもを育てるときには、子どもを対等だと思って接している。こうしなければいけないと、押しつけることはしない。「あなたはどう思うのか。」子どもに考えさせる。子どもに選択できる力を育てたい。



＜講演会の様子＞

○基本的に児童生徒は「伸びていきたい」という意欲をもっています。しかし、様々な要因によって自ら切り拓いていこうとする力を失ってしまうこともあります。「子どもたちが、主体的に学びに向かっている意欲を高めるため」の関わりについて、教職員・保護者・地域それぞれの立場からの視点での工夫や研修は欠かせません。「選択肢を与え、自己決定させて行動すること」「小さな意思決定の積み重ね」が自立と自律につながります。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を、全小中学校で進めていますので、保護者の理解と協力をお願いします。

## 学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

### ★ 着実に、丁寧に、継続を 進路保障の取組 ★

『進路保障』とは、様々な困難を抱えている児童生徒、さらには全ての児童生徒が、自ら主体的に学ぶ意欲と態度、また、確かな学力と豊かな感性を高め、健康の増進を図り、さらに進路に対する明るい展望と差別に立ち向かう強い意志を持って、将来をたくましく切り拓いていこうとする態度や能力を身につけていこう、幅広い教育活動を計画的に進めていくことです。

◆金城中校区では、小中連携教育推進委員会が中心となり夏季休業中に小中合同研修会(人権・同和教育研修会)を実施しました。講師の方のお話をもとにテーマを決め、小中学校の教職員混合の班で、児童生徒の実態を踏まえた意見交換を行いました。テーマをもとに教職員が自らの経験や中学校へ進学後の児童生徒の変容などを話しながら、自校の取組の振り返りや課題などについて考える好機となりました。また、2学期には中学校の生徒会が中心となって開催する人権集会に校区内小学校の5・6年生が参加しました。夏季休業中の研修会を通して小中の教職員が相互に児童生徒の状況を把握し、目指すべき児童生徒の姿を共有しているからこそ安心して開催することができる人権集会になっていると感じています。浜田市のアンケート結果による金城中学校区の児童生徒の実態は「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合は80.3%(市小中平均76.8%)、「人の気持ちがわかる人間になりたい」と思っている児童生徒の割合は97.0%(市小中平均94.0%)と市の平均を上回っていました。今後も小中連携した教育活動を推進し、児童生徒一人ひとりの自尊感情等を高めていきたいと考えています。



＜教職員合同研修会＞



＜中学生と小学5・6年生 合同人権集会＞

## 学校不応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

### ★ 児童・生徒の交流活動 ★

### ★ よろしく！ 互いを知ること 小中連携活動 ★



＜小中連携・交流会＞

◆三中校区では、中学校入学前の不安を解消し、安心感をもって進学するための取組をしています。6年生同士の交流活動(自己紹介ゲーム、ドッジボール等)を通して、互いの親睦を深め、振り返り活動で対話を行いました。今回の交流会だけでなく、合同講演会や合同授業等、複数の機会を設定しています。

○小中学校の連携した取組を通して、小学校から中学校へのつなぎを円滑に進めていくことができます。頭の中で考えているだけでは、児童にとってのハードルの高さは低くなりません。

実際に体験すること、実際に交流することで不安な気持ちが取り除かれていきます。機会を増やすこと、そして、フリータイムを設定することで、互いを知ることが大切です。